

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会 2024年度事業計画

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）は日本アメリカンフットボール協会（Jafa）にとって公益社団法人としての第12期となる。協会運営体制を整備し、定款・規則・規程に則った協会運営を進めて行くと共に、策定したJafaビジョンに基づき、フットボール界の全体最適化の第一歩としてJafa自身の法人運営の抜本的改革も実行していくスタートの年度である。

1) 日本スポーツ協会公認指導者養成事業

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）が主催する公認スポーツ指導者養成事業の一つとして、アメリカンフットボール競技に関する公認コーチ資格の専門科目講習会を開催する。

アメリカンフットボールを統括する国際競技連盟IFAF（International Federation of American Football）において、タックルフットボールとフラッグフットボールの二つの競技が主たるアメリカンフットボール競技として定められ、国際大会が開催されてきた。

タックルフットボールの公認指導者資格制度は2010年度から開始され2023年で14年を迎えるが、フラッグフットボールの公認指導者資格制度についてはその必要性は認識されていたものの未着手であった。2028年ロサンゼルスオリンピックにおいてフラッグフットボールが追加競技種目として決定されたことを契機として、新たにフラッグフットボールの公認指導者資格制度の整備が急がれることから、2024年度中にテキスト作成とフラッグフットボール公認指導者講習会の開催に着手する。あわせて、フラッグフットボール公認指導者資格取得者にはJafaがフラッグフットボール審判員（初級）資格を付与する。

また、更新時期を迎える公認コーチ資格保有者に対する更新講習を計画的に開催するとともに、資格保有者に対して更新講習の受講を促す。

2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、コーチクリニック、フットボール教室を開催する。

重大事故の未然防止等、選手の安全を守る、競技継続の観点から、ユース（小中学生）世代への技術指導や体力測定などを盛り込み、同年代の競技力向上および競技継続に繋げる。また高校生、あるいは大学入学後に初めてフットボールを始める選手たちを対象に下記の内容に沿った研修を行う。

公認指導者養成講座専門課程のテキストである「ショルダータックリング」ならびに「ヘッズアップ・ブロッキング」を活用した研修や、Jafaが監修、発行する「からだづくりハンドブッ

ク」を活用し、からだづくりプログラムも並行して進めていく。

加盟団体からの要請に基づき「JAF A フットボールアカデミーキャンプ」を実施する。

また、フライングフットボールに関しては、国際大会のルールを浸透させることを目的に講習会を開催する。

開催予定は以下のとおりである。

- ・ 2024年4月：高校生指導者クリニック（日本高等学校連盟）
- ・ 2024年5月：フレッシュマンクリニック（関西学生連盟）
- ・ 2024年5月：ヘッズアップアカデミー（東北学生連盟）
- ・ 2024年6月：ヘッズアップアカデミー（東海学生連盟/東海地区高校）
- ・ 2024年7月：ヘッズアップアカデミー（北海道学生連盟/社会人クラブ）
- ・ 2025年3月：ヘッズアップアカデミー（沖縄 AF 協会）
- ・ 2025年3月：ヘッズアップアカデミー（九州学生連盟）
- ・ 2025年3月：ヘッズアップアカデミー（中四国学生連盟）

※小学生フライングチーム対象のクリニック（または体力測定）、関東/関西高校連盟、関東/関西中学生連盟でのクリニック日程は調整中

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

3) 川崎市のまちづくり推進とアメリカンフットボールの普及活動

定款第5条第1項第1号及び第11号に関連する事業として、2006年に締結した川崎市との協定に基づき、川崎市のまちづくり推進連絡協議会に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努める。

川崎市との連携を踏まえ、他の自治体との連携にも取り組みアメリカンフットボールの周知度の向上、ファンの拡大を図る。また、2028年ロサンゼルス五輪の招待競技となったフライングフットボールへの取り組みを、川崎市からも発信し、新しい観客層の獲得に努める。

2015年4月からアメリカンフットボール準専用スタジアムとして運用開始された川崎富士見公園内の「富士通スタジアム川崎」を活用し、アメリカンフットボール関連競技団体及び指定管理者との協力体制のもと、「富士通スタジアム川崎」で開催するアメリカンフットボールの試合に多くの観客を集めるとともに、川崎市ならびに川崎区をはじめとする市内外の各団体の協力を得て、アメリカンフットボール（フライングフットボール含む）の市民スポーツとしての定着を図る。

また、川崎市内の小学校へ向けたフライングフットボールの巡回指導を開催する。6月～3月にかけて川崎市内の小学校の体育の授業でフライングフットボールを指導する。

※以上は、川崎市からの委託費を受けて実施します。

4) 国際競技力向上に向けた取り組み

定款第5条第1項第2号に関連する事業として、コロナ後の国際活動をいよいよ本格的に実施する年度となる。特に2028年ロサンゼルス五輪に向けてのオリンピックの輩出は業界初めてのチャレンジであり、オールフットボールとして力を結集し、JOC選手強化事業を中心としたオリンピックへの体制づくりを実行する必要がある。また、数年ぶりのタックルフットボールの日本代表海外派遣事業もあり、各世代の有力選手を募りクリニックや合同練習を行い、日本代表候補選手の育成、競技力向上を目指す。また、活動を通して指導者の交流や指導力の向上にも役立てる。国内での練習、試合、合宿、および必要に応じて海外での合宿等も行っていく。

① フラッグフットボール世界選手権大会（世代：18歳以上、男女）

2024年8月にフィンランドで開催される、IFAF主催のフラッグフットボール国際試合男女とも3位以内入賞に向け、JOC選手強化プログラムに基づき、強化を図る。

- ・2024年4月 東日本地区合同練習、西日本地区合同練習、各1回
- ・2024年5月 東日本地区合同練習、西日本地区合同練習、各1回
- ・2024年6月 東日本地区合同練習、西日本地区合同練習、各1回
- ・2024年7月 東日本地区合同練習、西日本地区合同練習、各1回
- ・2024年8月 フィンランド遠征（7日程度）

② フラッグフットボール日本代表候補、合同練習（世代：18歳以上、男女）、トライアウト

- ・2024年9月～2025年3月 フラッグフットボール世界選手権大会のレビューを行い、JOC選手強化プログラムに基づき、強化を図る。東日本、西日本それぞれで、月1回
- ・2024年5月（予定）クロスオーバーアスリートトライアウト（測定会）forFF
- ・2025年10月（予定）クロスオーバーアスリートトライアウト（測定会）forFF

※以上は、JOC強化事業の助成を受けて実施します。

③ 15U・17Uフラッグフットボール国際試合（世代：14～17歳、男女）

2024年7月にアメリカ合衆国で開催される、USA FOOTBALL主催のフラッグフットボール国際試合に、15歳以下、17歳以下、男女それぞれの4チームを派遣する。合同練習、国際試合を経験することによって、ジュニア世代フラッグフットボール選手の競技力向上を図る。

- ・2024年3月 東日本地区トライアウト、西日本地区トライアウト各1回
- ・2024年5月 東日本地区トライアウト、西日本地区トライアウト、各1回
- ・2024年6月 東日本地区合同練習、西日本地区合同練習、各1回
- ・2024年7月9日～ アメリカ遠征（5日程度）

※以上は、JSCスポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

④ フラッグフットボール日本選手権による選手発掘（世代：6歳以上）

フラッグフットボール日本選手権で活躍する選手の中から、フラッグフットボール日本代表候補選手の発掘および強化を行う。

- ・ 2024年12月：フラッグフットボール日本選手権開催（小学生・中学生）
- ・ 2025年3月：フラッグフットボール日本選手権開催（高校生以上）

- ⑤ シニア日本代表候補選手発掘・合同練習（世代：20歳以上）日米国際親善試合に向けた選手発掘・合同練習（世代：20歳以上）

2025年1月開催（予定）ドリームボウルに向けた、トライアウト及び合同練習を行い、シニア日本代表候補選手の発掘および強化を行う。

- ・ 2024年6月：関東地区合同練習、関西地区合同練習、各1回実施
- ・ 2025年1月：関東地区合同練習、1回実施

- ⑥ U-20日本代表候補選手発掘・合同練習（世代：20歳以下）

2024年6月開催予定のU-20世界選手権に向けた、トライアウト及び合同練習を行い、U-20日本代表候補選手の発掘および強化を行う。

- ・ 2024年5月：3~4日に関東地区トライアウトスキルチェック、18~19日に関西地区トライアウトスキルチェックを実施、最終選考発表
- ・ 2024年6月：1~2日、8~9日合同強化合宿、
- ・ 2024年6月：19日から7月2日U-20世界選手権カナダ遠征

- ⑦ クロスオーバーアスリート合同測定会（世代：16歳以上）

他競技経験者の中からアメリカンフットボール選手として活躍できる人材を発掘し、大学でこの競技に取り組んでもらう環境を整備する。高校生を対象にトライアウトを実施する。

- ・ 2024年は学生連盟8地区での実施、またフラッグフットボール選手の人材発掘も目指す。

- ⑧ 地域クラブ活動支援（世代：16歳以上）

長期育成プログラムの趣旨に沿った、高校生クラブ活動を担う団体に対して、自立したクラブを目指し、立ち上げや活動等について各参加団体と協力・連携しながら支援を行う。

- ・ 4月から段階的に実施

- ⑨ 若年層の競技人口拡大のための指導者支援及び環境整備支援（小中高世代）

若年層を指導する指導者のクリニックを実施及び、若年層がフットボールを選択するよう、大学・社会人を含めたオールジャパン体制でフットボール界全体の運営最適化に向け支援を行う。小中学生の育成ビジョンを策定する。

- ⑩ 海外リーグへ挑戦する選手の発掘（世代：20歳以上）

海外リーグ参加へ挑戦出来る環境を整えることにより、国内トップレベル選手のモチベーションアップを図る。

- ・世界のトップレベルである北米のプロリーグへの挑戦を支援する。
- ・2025年3月 カナディアンフットボールリーグ、トライアウト実施

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」、フラッグフットボール日本選手権の開催

定款第5条第1項3号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第78回ライスボウル」を主催する。アメリカンフットボールファンのみならず、競技で随一の知名度を誇るボウルゲームとして、今後とも多くのお客様に楽しんでもらえる日本選手権として定着させていく。

また、フラッグフットボール日本選手権は、出場を選手の目標とし競技力の向上を図り、レベルの高い試合の観戦によりファンを増し、五輪を目指すフラッグフットボール JAPAN を支える基盤強固を図る。

結果として、アメリカンフットボール競技全体の普及発展に寄与する。

6) 高校連盟及びユース・フットボール総括団体の主催試合等に対する後援ならびに助成

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、高等連盟やユース・フットボール総括団体が主催する試合（日本選手権、選抜チーム対抗戦など）を後援ならびに助成する。大学・社会人へと続くフットボールキャリアパスに JAF A として導くためにも、中学高校大会のクオリティアップはフットボール人口の増加（低下阻止）において重要な事業となる。

高校連盟に対しては、2023年度に引き続きクリスマスボウル（全国高等学校アメリカンフットボール選手権）と、ニューイヤーボウル（関西高校連盟選抜・関東地区選抜対抗戦）、パシフィックリムボウル（関西高校連盟）を後援、助成を行う。中学生協会に対しては、日本中学生大会、チェスナットリーグには小学生、中学生大会について後援、助成を行う。

7) 国際試合の主催・後援

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、フットボール競技の強化や普及のための広報 PR に最も効果的なメディア露出を期待し以下の国際試合を後援する。

① DREAM JAPAN BOWL 2025

対戦：日本選抜チーム vs 米国大学選抜チーム

主催：一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会

主管：一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会

後援：公益社団法人日本アメリカンフットボール協会

日程：2025年1月

会場：国立競技場（予定）

8) 国際試合へのチーム派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、チーム・個の競技力向上のため、さらにフットボール競技の強化・普及のための広報 PR のニュースづくりのためにも国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF) 等が主催する国際試合に日本代表チームを派遣する。

また、2025TWG 成都大会、2028LA オリンピックの追加競技として、アメリカンフットボールの派生競技であるフラッグフットボールが追加競技として承認されたが、単年度で終わることなく引き続き国際総合競技大会で採用されるような働きかけを行う。

- ① 国際連盟主催のフラッグフットボール・世界選手権に男女の日本代表チームを派遣する。

日 程：2024年8月末

会 場：フィンランド・ラハティ市近郊

主 催：国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)

※以上は、JOC 強化事業の助成を受けて実施します。

- ② U20 アメリカンフットボール世界大会

日 程：2024年6月末

会 場：カナダ・エドモントン

主 催：国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)

※以上は、JSC スポーツ振興基金助成の助成金を受けて実施します。

9) 国際試合への審判員の派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、国際試合に審判員を派遣する。

国際大会の経験を積ませ、その内容をフィードバックすることで、国内審判員の意識向上及びスキル向上を図る。

2024年度は、IFAF 等の要請に応じ2024年8月にフィンランドで開催される、フラッグフットボール・世界選手権に審判員を派遣する。

10) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、プレーヤーの安全・ゲームの高潔さの維持、攻守のバランスの維持などを目的に、競技規則委員会 (2024年3月開催) の決定に基づき、アメリカンフットボール競技の2024年度公式規則について、2023年度公式規則からの変更内容を決定し、4月発行予定の2024年度・公式規則変更予定報および7月発行予定の2024年度・公式規則変更内容・決定報を通じて、加盟団体に周知する。また、8月に2024-2025公式規則・公式規則解説書 (ルールブック) を発行する。

1 1) 安全対策に関する周知活動及び医・科学研究会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、外傷、障害を減少させるために、全国各チームに対して安全対策の啓発活動を行う。

シーズン終了後(2025年2月)に「安全対策全国会議」、および「アメリカンフットボール医・科学研究会」を例年通り開催し継続的な安全対策の拡大普及を図る。

今後も現在の活動を充実させ、全国の各連盟、協会と協力、連携して、全国の重大事故をゼロにすることを目標としたい。

これには、各チームにトレーナー、ドクターを配備し、また現場ではAED、スパインボードその他の救急物品の整備が重要であり、これらの状況を改善するための具体的な施策も検討していく。

① 安全対策全国会議の開催

全国の JAF A 加盟団体の安全対策担当者が一堂に集まり、重大事故や試合時外傷の発生状況について情報を共有し、安全対策を協議し確認する。

② アメリカンフットボール医・科学研究会の開催(関東地区を予定)

ドクター、トレーナー、選手、指導者が一堂に会し、過去の重大事故の検証や、スポーツ医・科学における最新の知見を共有し、現場の選手の安全確保のための情報共有、意見交換を行い、安全対策の構築、実践に役立てる。

1 2) ドーピング検査

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、(公財)日本アンチ・ドーピング機構の指定によりライスボウルにおいてドーピング検査を実施し、アメリカンフットボールがクリーンスポーツであることを広く発信する。

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

1 3) アンチ・ドーピング講習会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、アンチ・ドーピング講習会を開催する。多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの主旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請(TUE)、居場所情報提出などの手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、日本選手権「ライスボウル」に向け2024年10月~11月にかけてアンチ・ドーピング講習会を開催する。また、フラッグフットボール世界選手権、U20世界選手権及びU15・17のフラッグフットボール米遠征強化試合に出場する選手にも講習会を開催する。

※以上は、JSC スポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

1 4) 受講者推薦（日本スポーツ協会公認スポーツドクター及びアスレティックトレーナー養成講習会）

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、日本スポーツ協会が主催するスポーツドクター養成講習会、及びアスレティックトレーナー養成講習会の受講生を推薦する。

JAJFA から推薦したドクター、トレーナーが資格取得後に、アメリカンフットボールの現場で安全対策の業務に参画することが目的であり、今後もこの条件を満たす受講者を推薦する。

1 5) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第5条第1項第7号に関連する事業として、あらゆる機会をとらえて、国、地方自治体その他の競技場または競技場用地所有者に対して、アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進を働き掛ける。

川崎市、川崎富士見公園内にはアメリカンフットボール準専用スタジアム「富士通スタジアム川崎」があり、周辺に緑を配置したスポーツ活動の拠点となる空間を整備する計画がある。

2023年度から始まっている、富士見公園全面改修工事が続いており、今後も川崎市と連携しながら改修工事に協力をしていく。

1 6) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第5条第1項第5号及び第8号に関連する事業である。アメリカンフットボールは、以下の基本原則により、全米大学体育協会（NCAA：National Collegiate Athletic Association）で毎年競技規則が改訂され、それに伴い審判員のメカニックも米国 CFO（College Football Officiating LLC）で改訂されている。

競技規則改訂の基本原則

- 1 プレーヤーの安全
- 2 ゲームの高潔さを維持する
- 3 コーチングが容易である
- 4 審判が容易である
- 5 攻守のバランスを維持する

この変更の主旨を正確にかつ迅速に把握するために、我々の諸先輩が NCAA と CFO のキーパーソンとネットワークを構築し、毎年1月に実施される CFO のフットボール・コーディネーター・ミーティングにオブザーバー参加する機会を得ている（オブザーバー参加は日本のみ）。

この会議で得た情報をもとに競技規則変更予定報、決定報、競技規則書をタイムリーに発行し、チーム関係者や審判員等からの疑問に対して要すれば米国のキーパーソンに問合せを行い、適切な回答を行うことができている。

また、上記に加え審判技術取得、向上のためにナショナル・レフェリー・カンファレンス、及びナショナル・インスタントリプレー・クリニックにも関係者を派遣している。

今後もこの状態を維持し、審判委員会および競技規則委員会の世代交代の際も適切に引継ぎが

できるように、早急に以下に示す派遣人数の増加を図りたい。

- ・フットボール・コーディネーター・ミーティング：2025年1月。今年度は2名を派遣（今後人数増へ）。
- ・ナショナル・レフェリー・カンファレンス：2024年5月。今年度は1名を派遣（今後人数増へ）。
- ・ナショナル・インスタントリプレー・クリニック：2024年5月。今年度は1名を派遣（今後人数増へ）。

17) WEBサイトによる情報発信

定款第5条第1項第9号に関連する事業として、JAF A専用WEBサイトを活用して、JAF A及びアメリカンフットボール、フラッグフットボールに関する情報を発信する。

JAF A公式WEBサイト運用の充実と共に、サイトリニューアルの実施を始める。本協会の公報としての役目を果たすためにWEBサイトを活用した情報公開を実施する。

※以上は、JSCスポーツ振興くじ助成の助成金を受けて実施します。

18) 殿堂顕彰

定款第5条第1項第10号に関連する事業として、2026年に開館30周年を迎える「日本アメリカンフットボールの殿堂」に日本全国のアメリカンフットボールの歴史を展示できるような展示・保管ルールの見直しを進め、日本のアメリカンフットボールの100周年に向けての殿堂展示スペースの拡張についてKeep協会と検討を開始します。

2024年度は第6回の殿堂顕彰者の選考を行い2025年1月3日の日本選手権ライスボウルで発表する。第6回までの殿堂顕彰者を紹介するための紹介ページを日本アメリカンフットボール協会WEBサイトの殿堂ページに掲載し、加えて日本のアメリカンフットボール90周年の歴史のページを掲載する。

19) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第5条第1項第11号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟(IFAF)、独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)、公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構(JSAA)、一般財団法人日本トップリーグ連携機構(JTL)、一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)、公益財団法人日本フラッグフットボール協会(JFFO)、NPO法人日本ワールドゲームズ協会など関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動する。

以上